

第 1 回幼保小三者連絡会実施報告

1 テーマ 「幼児教育と小学校教育の違いを理解し合い、スムーズな就学が
図れるために」

2 公開授業の内容

開催日	会場校	実施内容（科目／教諭名）
7月4日（金）	唐子小学校	1年1組 国語「すきなこと なあに」 齊藤 浩子
		1年2組 国語「すきなこと なあに」 澄川 知穂
7月9日（水）	市の川小学校	1年1組 体育「マットを使った運動遊び」 笠原 大輔
		1年2組 国語「おむすび ころりん」 石原 千草
		1年3組 音楽「はくによって リズムを うとう」 田島 史絵

3 参加人数（公開授業）	唐子小学校	27人
	市の川小学校	37人
	計	64人

令和7年度幼保小三者連絡会 研究協議記録

開催日 令和7年7月4日(金)

会場 唐子小学校

研究協議において各班から出た主な意見・感想

1班(座長:峯氏)

- 1 幼児教育は、非認知能力(数値ができない能力)を育てる場
小学校教育は、それを土台として、認知的能力(数値ができる能力)を育てる場である。
つまり、幼児教育は「日常世界の経験からの学び」、小学校教育は「日常世界の経験では学べないものの学び」である。
この考え方の違いが、子どもたちの混乱を生じさせている。と考えられる。(幼稚園)
- 2 幼・保・小三者連絡会には何度か参加しているが、小学校の先生方の参加率が低いと感じる。
小学校の先生方の意見を聞ける場が少ないので、それぞれの方針をお互いに理解することが重要であると考え。(保育園)
- 3 小学校の先生が、保育の現場を見学する機会も必要かと思う。高坂幼稚園では、高坂小学校と調整して、幼稚園の様子を見学してもらったり、園児を連れて小学校を見学に行く機会を設けている。(幼稚園)
- 4 幼児教育、小学校教育は、行政の領域(保育課、学校教育課)でも壁がある。大人の都合で壁を作ることはよくない。小学校や園で作成しているカリキュラムを持ち寄って協議する場を設けてもよいのではないか。(幼稚園)
- 5 先生と児童の対話が多く、児童がすごく楽しそうに学んでいることが印象的であった。
(保育園)
- 6 子どもたちが「わからないことを楽しめている」うちに、学ぶことの楽しさを教えてあげることが大事なのだと感じる。(幼稚園)
- 7 授業と言われて想像するイメージは「机に座って静かに先生の話聞いて学ぶ場」であったが、今日の授業は「友達や先生と交流しながら楽しく学べる場」であった。年長児には、小学校への不安を抱えている児童もいるので、今回のイメージの違いを子どもたちにも伝えてあげたいと思う。(保育園)
- 8 子どもの育ちがデコボコで差が大きい。小学校ではいつ頃からデコボコの差が落ち着いてくるのか?(幼稚園)
→入学当初は、泣いてしまう子、離席してしまう子もいたが、1学期後半になって少しずつ指示がとおり始めている。スモールステップ(離席しない、忘れ物をしない)を設定しクリアしていくことで差が無くなってきているのではないかと考える。
家庭での育て方(価値観)が大きく影響するため、夏休み期間に不規則な生活や自由な食生活で過ごしてしまうと、夏休み明けに状況が変わってしまうのではないかと不安である。
(小学校)

2班 (座長：二口氏)

- 1 小学校の先生の話聞いて、幼・保で子どもたちが身につけたことが小学校生活で活かされていると感じた。ただ、幼・保・小の連携はもっと必要であるとする。(小学校)
- 2 子どもが夢中になることをいかに学習意欲に繋げられるかが、小学校生活において重要である。(小学校)
- 3 子どもの好奇心や興味を原動力に、文字を書いたり、言葉を学んだりできるような活動に取り組んでいる(保育園)
- 4 遊びの中で子ども同士が主体的に話し合っただけで学ぶことができる環境づくりを大切にしている。(幼稚園)
- 5 学力や生活能力において子どもの能力差がある中で、全員に共通する目標を設定した丁寧な教育を心掛けているが、その中で難易度をどの程度に設定するかが難しい。今後の課題は、授業についていきにくい子どものサポート方法である。(小学校)
- 6 子どもたちは、小学校では苦手なこともやらないといけない、ルールを守らなくてはならない、という認識がある。不安や強迫観念が強い子が多いと感じる。(小学校)
- 7 グループでの話し合い、子ども同士での教え合いができる授業展開を行っている。(小学校)
- 8 就学後の子どもの躓きや苦手分野を理解する上で、幼・保の先生からの意見や引継ぎは大変参考になる。(小学校)
- 9 子どもたちの環境適応能力の高さから、幼・保で培ってきた生活力が小学校生活で活かしていると感じる。(給食の配膳や掃除などスムーズにできている点から)(小学校)
- 10 幼・保は遊びが中心、小学校は時間も行動も決まりがある、ということ子どもたちも認識しており、就学後の生活に不安を感じることも多い。授業の枠内で遊びを取り入れながら学ぶ環境づくりが大切である。(小学校)
- 11 幼・保は子どもがやりたいことを決められるが、小学校はカリキュラムに沿って学ぶという点が大きな違いだと感じた。(保育園)
- 12 担任がやるべきことを指示するだけでなく、子ども自身が1日の見通しを立てて行動できるよう、子どもの自主性、応用力を伸ばせるような保育を念頭に置いている。(保育園)
- 13 就学に向けてのイメージを子ども自身が膨らませられるような会話を心掛けている。(保育園)
- 14 就学後の生活に不安を感じる子どもは多い。幼・保では子どもの取り組みを終わるまで待つことができるが、小学校生活では時間を守った取り組みが必要とされるため、就学に向けて子どもの不安を除く取り組みが幼・保で必要と感じる。(保育園)
- 15 子ども同士での会話のキャッチボールができており、疑問点をしっかりと言葉にできていた点に成長を感じた。(保育園)
- 16 授業内でペアを作る際にトラブルなく、子ども同士でコミュニケーションをとれていた点に成長を感じた。(保育園)
- 17 子どもたちにとって、授業中座り続けることは苦痛を感じる中で、授業内で合理的な出歩き(20歩歩いて出会った人とペアを組む)やコミュニケーションを取り入れている点が良かった。(小学校)
- 18 授業を見て、子どもと先生の関係性がとても良かった。授業内で子どもの意見を聞きながら

時間設定を行っている点も良かった。(保育園)

- 19 外国籍の子どもの進捗状況を気かけながら授業を進めている点が良かった。(保育園)
- 20 去年は自分の気持ちを単片的に伝えることしかできなかった児童が、就学後、要点をとらえた説明ができるようになっており、就学後の成長に感動した。(保育園)

3班 (座長：狐塚氏)

- 1 年長児は小学校入学を楽しみにしている。読み書きはカリキュラムの中で、道具を使ってみるなど工夫している。お当番活動も回りと同じことができると自信が深まる。(幼稚園)
- 2 子どもたちが意欲的に、楽しそうに発表や取り組みをしていた。小学校に自信を持って進んでもらえるよう、園生活の中で色々な経験を身につけさせてあげたい。(幼稚園)
- 3 年長児を担当しているが、ややメンタルが弱く心配性な子があり、小学校への気持ちの持っ
ていき方を考えている。園生活では、遊びの中で人間関係を育む、文字を覚えるなど、遊び
に興味を持ってもらえるように過ごし、小学校へ送り出している。(幼稚園)
- 4 クラスの雰囲気作り方は学校それぞれと感じているが、唐子小は教室にお誕生日表が貼っ
てあるなど、無機質な教室と違い、雰囲気が幼稚園と近いものがあった。先生も表情豊かに
授業を行っていて、子どもたちも楽しそうだった。帰りの会の「ほめほめシャワー」など、
自己肯定感を上げていく、お互いに認め合う環境はとても良いと思った。幼・保と小学校で
似ている雰囲気を作れば良いと思う。(幼稚園)
- 5 小学校入学にあたり、保護者の不安が子どもに伝わりプレッシャーになっているのかもしれ
ない。先輩保護者からのアドバイスなど、不安を取り除いてあげる取り組みが必要。子ども
たちは、困ったことを自分で伝えられるのが大事だが、目を合わせてコミュニケーションを
とれない子が多い。生活の中で、心を通わせる場面を作るのが大事。今日の授業では、コミ
ュニケーションを大切にしていると思った。次にやることを提示してくれていたもので、子ど
もの安心に繋がる。(保育園)
- 6 授業の中で、子どもたちが共感する場面が多く見られ、保育園と近い雰囲気で楽しそうだっ
た。保育園では文字を教えていないが、絵などをたくさん描いて、たくさん話をして、自然
と文字に興味を湧くようにしている。また、生活リズムが乱れているクラスがあり、お泊り
保育などで、保育園でもリズムを整える取り組みをしている。生活リズムが乱れていると、
主体的な学びのスタート地点にも立っていないと考える。不登校の子どもを保育園の頃の生
活リズム(早寝早起き朝ごはん)に戻したら、学校に行けるようになった事例があると聞く。
生活リズムの大切さを保護者にも理解してもらいたい。(保育園)
- 7 幼・保の生活から小学校の生活に移行するにあたり、子ども、保護者が戸惑う気持ちも理解
する。チャイムに合わせてタイトなスケジュールで動く、型はめの難しさがある。生活リズ
ムのけじめをつけることが大切で、子どもたちで生活リズムがしみつくようにすれば、小学
校でも上手くいく。お話が上手な子は生活経験からきているので、幼・保でも少し踏み込ん
で子どもたちと話をしてみてもらえると良いと思う。(小学校)
- 8 幼・保・小の接続に関して、幼・保でどのような取り組みをされているのか、正直なところ
これまで全く分からなかった。幼・保は園毎にそれぞれ、小学校は共通の到達目標がある。
どんなことをしてきた子たちなのか、全ては分からないので、ある程度型にはめるしかない。
そのため、学校が怖い、行きたくないとなるのは自然かもしれない。小学校教員としては、
小学校就学に向けてどのような取り組みをしているのかを知る機会がもっと欲しい。(小学校)
- 9 1年生になる不安な気持ちの取り除き方を伺えればと思う。(幼稚園)
→小学校はすごく楽しい所。怖い所ではないよ、と送り出していただきたい。読み書きがで

きる、できないではなく、幼・保のうちは文字に親しんでもらえれば大丈夫。嬉しい経験を増やしてあげていただきたい。(小学校)

- 10 幼・保と小学校のギャップを埋めるのに、どのあたりにポイントを当てれば良いか。(保育園)
→幼・保では、子ども＝先生（親しみやすさ）、小学校では、子ども＜先生（言葉、態度に気をつける）という関係性になるので、節度をもった接し方（けじめをつける）、時間で動くことを教えていくと良いと思う。小学校の先生は「教えてくれる人」という位置づけになるように。また、困ったとき、分からないときに自分で声を上げられるよう、きっと自分だけではなくみんなも困っているよ、分からないよ、だから先生に困ったと言ってくれたことはみんなにとってプラスになるんだよ、と話している。このことを保護者にも伝えると、先生との関係性が変わってくると思う。(小学校)
- 11 配慮が必要と思われる子が増えている。巡回相談で保育園では把握できるが、小学校でも引き続き対応してもらえているのか心配になる。確実に連携してもらえるとありがたい。
(保育園)
→新年度の担任が決定する前に引継ぎが行われるので、細部までの連携は正直難しいのが現状。1年生の担任が実際に確認できるのは新年度になってからだが、参考にしている。
(小学校)
- 12 5歳児健診が始まったのが大きい。概ね年長組になると、物事に対する子どもの理解度の違いが見えてくる。その前に受診するため保護者に説明しやすい。(幼稚園)
- 13 幼・保・小の連携については、従来は「小学校でこうなるので、幼・保がそれに合わせる」という形だったが、ここ数年で変わってきた。幼児期に学ばせるのは、見通しを持つ力、自分で考えて動く力。あくまでも遊びを通して主体的に、興味・関心を原動力に学びに向かっての芽生えがある。心情面でも、新しいことへの耐性が身につくよう、子どもが自信を持つことが大切。(幼稚園)
- 14 幼・保・小の接続に向けては、保護者の理解がないと難しいと感じている。プラスアルファで親の学び（年長児の保護者など）も必要ではないか。
幼・保の園児と小学生が、行事で交流したり、1年生の担任の先生に幼稚園・保育園を見に来てもらう機会が増えると良い。(保育園)

令和7年度幼保小三者連絡会 研究協議記録

開催日 令和7年7月9日(水)

会場 市の川小学校

研究協議において各班から出た主な意見・感想

1班(座長:中村氏)

- 1 メリハリのある指導が重要であると感じた。声かけが子どもに分かりやすく、ほめながら進めていたので保育園に似ていた。先生の話をよく聞いていて私語が少なかったが、4月からそうなのか。(保育園)
- 2 落ち着いて授業ができていて成長していた。保育園でやっていたリズム遊びが活かされていてよかった。(保育園)
- 3 心の声が漏れていて変わっていなかった。ただ、伸び伸びできていたし、友達に教えてあげたりもできていた。(保育園)
- 4 暑い中での体育の授業は課題である。10分運動したら教室に戻って涼んで対応している。体育館にエアコンを設置して欲しい。経験的に4月は緊張して座っているが、5月ごろから発達面に心配のある子や話を聞いて欲しい子は離席をする。話を聞いて欲しい子は徐々に離席が減ってくる傾向である。(小学校)
- 5 小学校は全校集会等6年生と1年生で同じことを求められる場面があり、1年生ではかなり難しい。授業ではできるだけ子どもの自由度を優先している。今年は保護者から連絡帳でのやりとりが少ないため、学校であったことを子どもが親に伝えられている。(小学校)
- 6 先生たちの工夫もあり、どのクラスも楽しんで取り組んでいた。保育園は10人程度の集団生活だが、学校だともっと多いので保育園でも工夫してやってあげたい。(保育園)
- 7 友達に教えていて成長した姿が見られた。自主的に手を挙げ、考えて発言もできていた。先生も工夫して楽しみながら授業が受けられるようにしていた。(幼稚園)
- 8 整列時に4列の指示であったが3列になってしまい、先生の厳しい面があり幼稚園との違いを感じ、やはり壁もあるのかなと。ただ、色々な指導をしてもらって成長していかなければならない。(幼稚園)
- 9 先生の厳しい顔が印象的であった。授業をしっかり聞けていたので保育園であれば褒めている場面である。3歳頃から生活基盤を作っていければ学校で困らないと思う。配慮が必要な児童も多く、学校は加配職員が専属で担当することもないので大変だと思う。(保育園)
- 10 室内の体育だと色々と制限がかかってしまう。今週は休みが多く授業だけでなく給食配膳でもうまいかないこともある。初めて1年生を担当しているため、子どもも私もわけが分からない状態である。ただ新しい発見もあり、良い経験になっている。4月は登校渋りが結構多く、ママに早く会いたいなどの声があったが、GW明けから減ってきている。(小学校)
- 11 幼・保・小があるように小中でも連携がある。中学校を見ると更に厳しいと感じる。小学校では子どもを触らないし、呼び方も「さん」づけで呼ぶので、距離感を感じているかもしれ

- ない。(小学校)
- 12 授業中はあだ名で呼ばせないようにしている。連絡網がなくなったため親同士の関係も薄くなったと感じる。連絡帳での丁寧なやりとりはできないため、学年だよりで伝えるようにしている。(小学校)
 - 13 スキンシップや呼び方のギャップをどう埋めていくか。実際、学校の先生を信頼しているので少しずつ対応できれば。他にここだけはやって欲しいことはあるか。(保育園)
 - 14 何かあると先生に集まってくる傾向がある。質問があれば近づかずに手を挙げるよう教えて欲しい。(小学校)
 - 15 学習は学校で教えるが、ご飯をきれいに食べるとか紙を折るとかができない子がいて、家庭にも問題があるのかもしれないと感じるケースがある。基本的なことができる子は勉強もできる子が多い。(小学校)
 - 16 家庭の協力も必要である。保護者には状況を伝えているが、自分の子しか知らないから、他の子と比べられるように見に来てもらったりしている。(保育園)
 - 17 できないことを幼稚園、保育園で伝えているので、親にも状況が伝わっていて話がスムーズに行くことが多い。(小学校)
 - 18 発達面については早い対応がいい。他市では検査でちょっと怪しいとなったら無料で受診ができるところもある。市で対応してくれると助かる。配慮が必要な子でも勉強ができたり、コミュニケーションが取れたりすると差がある。保護者が相談しやすい環境を作るのが大事である。(幼稚園)

2班 (座長：小佐野氏)

- 1 本日の公開授業は子どもたちも緊張していた様子。頑張ってくれていたが、普段はもう少し飽きてしまう子や集中力が続かない子などがある。飽きてしまったときの対応には苦労している。一人だけつきっきりで対応していると授業が終わらない。(小学校)
- 2 子どもが先生の話聞いておらず、友達とトラブルになることがある。その際はあえてトラブルを止めずに、友達から注意されることにより、気づき、理解することもある。先生だけではなく、周りも困ってしまうことを理解させる。(保育園)
- 3 勤務している保育園は複数担任のため、役割分担をして対応しているが、それでも対応が難しいときがある。(保育園)
- 4 トラブルがあった場合は、友達の力を借りることもある。子ども自身がはっと気づく時がある。(幼稚園)
- 5 整理整頓など毎日同じことを繰り返し伝えている。全問正解することはできないが、その子なりの成長として認めてあげる。(保育園)
- 6 子どもは一日、一日できることが増えている。ただ、難しい問題が生じた場合、母が代わりに全部やってあげることがある。子ども自身に問題が生じた場合に、どうするのかを考えさせ、考えたことを評価することにより、幼児期の非認知能力や見通しを持つ力が身に付く。(認定こども園)
- 7 おしゃべりをするのをやめないときは、静かになるまで待って、友達同士でおしゃべりをやめようなどと教えあい、子ども達に気づいてもらうようにしている。先生が口を出しすぎないようにしている。また、飲み物をこぼしてしまったときは、こぼしたことを先生に伝えるだけではなく、その後の処理はどうするということ考えさせるようにしている。(認定こども園)
- 8 発達面が心配される子どもを持つ保護者に対して、小学校の普通級にこだわるのか、幼児期にどこまで踏み込んで話すのかが悩むところ。保護者は拒絶感や不信感を持つ。(認定こども園)
- 9 小学1年生に対しては、6月頃までは様子をみて、夏休み中に家庭で頑張ってもらいたいところなどを伝えている。(小学校)
- 10 子どもは保育園で集団保育しているときと家庭での様子は違う。そのため、保護者が納得できないことが多い。幼児期から無理に勉強させる必要はないと思うが、小学校で勉強ができないことを聞くと、もう少し保育園側でもできることがあったのではないかと考える。(保育園)
- 11 幼児期は遊びの中で興味を持ち、勉強していくものである。(認定こども園)
- 12 最近はメンタルが弱い子、何かあれば逃げ出してしまう子、大泣きしてしまう子が多い傾向。苦手なことも頑張る必要があることを伝えている。(小学校)
- 13 本来、子どもたちは環境が変われば、新しい環境に適応できる力を持っている。その中で失敗しても大丈夫、幼児期の頃から経験することが大切であるため、成長過程を評価する必要がある。そこが育たないと学習の場に繋がらない。(認定こども園)

3班 (座長：竹内氏)

- 1 経験の足りない子どもが増えた。水道水は飲めるということを知らない、野菜を食べたことがない、童謡や昔話を知らない等。(小学校)
- 2 勉強よりも歌や物語を知らず、苦勞している子どもたちが多い。(小学校)
- 3 幼稚園や保育園では勉強よりも様々な経験をさせてほしい。(小学校)
- 4 小学校ではソーシャルスキルトレーニングを取り入れている。(小学校)
- 5 7月になっても1年生の子どもたちには不安そうな様子が見られる。泣いてしまう子が多く、自分の気持ちを言葉で表現することができない。(小学校)
- 6 子どもたちの中で小学校はこうあるべきという理想があり、完璧にできないと泣いてしまう子がいるが、そんなに完璧でなくても良い。(小学校)
- 7 幼稚園ではひらがなを書くことができる子とできない子の差が激しく心配。(幼稚園)
(小学校の先生より、勉強は学校に入ってからゆっくり進めるため心配いらないと回答あり)
- 8 成長するにつれて気を遣ってしまい、自分の気持ちを言えない子が多くなる。(幼稚園)
- 9 自分の気持ちをどう表現したら良いか分からない子が多く、そのような子に対しては先生がこれが嫌かな？これかな？と一つずつ確認している。(幼稚園)
- 10 保育園や幼稚園までは親が園まで送ってくれるが、小学校では自分で歩いて登校するため、その面で不安に感じたり、母のことを恋しくなっている面もあると思う。しかし、学校が楽しいところだということは分かっている様子。(保育園)
- 11 小学校入学前に通学についての不安をなくす必要あり。(保育園)
- 12 保育園では失敗の経験を大切にしている。子どもたちのけんかを見守ることを大切にしている。(保育園)
- 13 子どもたちの低年齢化や生きる力が足りないと感じる。(保育園)

(まとめとして)

- ・小学校に入る前には様々な経験を積ませることが大切。
- ・生活や遊びの中で学ぶことを大切にする。
- ・勉強は小学校に入ってからゆっくり学ぶことができるため、幼稚園や保育園の間はたくさん経験し、自分の気持ちを言えるようになってほしい。

4班 (座長：峯氏)

- 1 授業が主体的、対話的であったか、という視点で見ると、従来の授業からは変わってきていると思う。先生は客体でも良く、あまり言葉を発しないこと。子どもたちが率先して授業を作り上げられたら良い。学校教育と幼児教育・保育の本質は同じで、楽しさである。(幼稚園)
- 2 体育では身体を動かして、音楽ではリズムに乗って、国語では『おむすびころりん』のお話を、子どもたちが身体を使って表現していた。自分たちが紙芝居を見せるように、同じ感じで授業が行われていて、楽しそうだった。(幼稚園)
- 3 国語の授業では、ひらがなを書くマスを「お部屋」と言い換えて、幼児教育に寄せていたり、クイズ要素を取り入れていたり、児童が楽しそうに授業に取り組んでいた。音楽の授業でカスタネットが見つからない子に、先生は在りかに気づいていてもすぐに声を掛けず、お友達が一緒に探していた。児童同士、児童と先生の間関係が築けていて良いと思った。
(幼稚園)
- 4 子どもたちが、先生の問いかけに考えて、声を出していた。決して教え込む授業ではなく、自主的に参加している様子で楽しそうだった。(保育園)
- 5 音楽の授業で、タンバリンが人数分無かったが、譲り合って順番に使っていて、小さな人間関係ができていた。(保育園)
- 6 タンバリンの話は、人数分が無いから良いということ。協力して譲りあい、貸しあうことができるので、人間関係が育つ。「多少の不自由」を感じさせることも大切。(幼稚園)
- 7 体育の授業で、子ども同士の間隔が狭いときは、お互いにコミュニケーションを取り合って、自分たちで考えながら動いていた。また、それを回りの子にも伝えられているところが、普段の学校生活で作られているものと感じた。(保育園)
- 8 体育の授業で、保育園の頃はやや心配なところがあった子が、先生があれこれ注意することなく、楽しそうに取り組んでいた。先生が見本を沢山見せなくても、自分たちで考えて、楽しく授業に参加している印象を受けた。(保育園)
- 9 主体的、対話的な学びのためには、土台が出来ていなければならない。多様性という言葉で片づけられがちだが、自由と多様性は異なるということをきちんと教えていく必要がある。小学校では、今は座る・話す・書くなど基本的なことができないと、主体的な深い学びに繋がらないので、1学期は土台作りに時間を使っている。自分でできる力を持っているので、活躍の場を与えるようにしている。(小学校)

幼保小三者連絡会 アンケート結果

開催日 令和7年7月4日(金)

会場校 唐子小学校

参加者 公開授業 27人

研究協議 29人

アンケート回収 25枚

1. 所属

	幼稚園	保育園	小学校	その他	計
人	8	11	5	1	25
%	32.0	44.0	20.0	4.0	100.0

2. 参加回数

	初めて	2回目	3回目	4回目以上	計
人	5	7	3	10	25
%	20.0	28.0	12.0	40.0	100.0

3. 参加してみたの感想

	大変良かった	まあまあ良かった	ふつう	やや物足りない	物足りない	未記入	計
人	18	6	0	0	0	1	25
%	72.0	24.0	0	0	0	4.0	100.0

4. 良かった点、物足りない点

- 1 幼稚園と小学校との連携について、小学校では、幼稚園・保育園ではどのような生活をしているのか、明確に話し合えたことで、しっかりと接続していけることが互いに分かり合える機会があった。更に連携していくためには、小学校の先生にも園に来ていただけたらと思った。(幼稚園)
- 2 小学校の困っていること、幼稚園・保育園での生活を伝えることができたこと。実際に様子を見ないと、子どもたちの姿、小学校の生活、子どもたちのギャップで困ることを理解することは難しいため、話し合うことができて良かった。(幼稚園)
- 3 授業の様子を見られたこと、小学校の先生方と意見交換ができたことについて、とても参考になり良かったです。(幼稚園)
- 4 小学校の授業を見せていただき、まずギャップがあると言われていましたが、幼稚園で学んだ

- ことが活かされるような、対話的で主体的な授業だと思いました。協議会ではもう少し小学校の先生方と話し合い、意見の出し合いができると良いと思いました。(幼稚園)
- 5 小学校での様子(1年生になってから今まで)を聞いて、繋がっているところや取り組み等を聞くことができ良かったです。幼稚園の保育がどんなことをしているのかなど、お互いに知っていけると良いと思いました。(幼稚園)
 - 6 小学校への接続を考えた上で、子どもたちのために良い話し合い、共有の場となりました。(幼稚園)
 - 7 幼・保・小の接続について、細かい部分までの話し合いができ良かったと思う。幼児期の経験を大切にしていきたいと思う。(幼稚園)
 - 8 1年生の授業がとても楽しく対話的で、学びに対して意欲的な子どもたちの姿、授業の進め方を見ることができて、嬉しく感じました。年長児にも楽しく毎日を過ごす中で、やる気だったり、物事に対してのポジティブな姿勢でいられるように保育していきたいと思います。(幼稚園)
 - 9 小学校の授業の変化を知ることができて良かったです。もっと幼・保・小の先生方で話し合っ、子どもに成長に繋がる架け橋期の移行をスムーズにしていきたいです。(保育園)
 - 10 子どもが生き生きとした表情で、主体になって展開されている授業を見て、とても安心しましたし、幼・保との繋がりを感じました。安心しました。(保育園)
 - 11 小学校の授業を初めて見て、想像していたものと良い意味で違っていたことに気づけたので良かった。楽しんで学んでいる姿が見られて良かったです。(保育園)
 - 12 実際に小学1年生の授業を見せていただき、子どもたちの様子、授業の工夫などを感じることができ、大変参考になりました。幼児期から小学校への接続で、ギャップに感じることも具体的にお聞きすることができ、大変参考になりました。ありがとうございました。(保育園)
 - 13 実際に授業を受ける子どもたちの姿を見せていただくことで、どのように子どもたちが授業を受けているのか、どのくらい育った様子なのかを知ることができました。生活の様子や、授業を受ける様子から、今後、保育園で子どもたちとどのように関わっていくか、勉強になりました。(保育園)
 - 14 今回の授業は子どもたちがとても楽しそうで、ただ45分間座っているだけではなく、色々移動したり、口の体操をしたりと、楽しいと思えるような様子が良かったです。子どもたちにも楽しく学べるということを伝えられる良い機会になりました。今後もまた小学校の様子が見られたら嬉しく思います。(保育園)
 - 15 卒園児の小学校での様子を見ることができ、安心しました。また現在やるべき事、育てていきたいところが明確になり、勉強になった。もう少し質問や、小学校に向け何をしてほしいかが聞けたら良かった。(保育園)
 - 16 今回のような幼・保・小の現状の話を、連絡会に出席した方がしっかりと伝えているのかな?と感じた。(幼稚園・保育園) やっておいてほしいことは、担任の意見であって、現在の「すすめ」ではなかったので、各参加者が、今はどのようにすすめられているのかを持ち帰って、伝えてほしいです。(保育園)
 - 17 子どもたちが楽しんで自主的に授業に参加している姿を見て、保育園での日々の子どもの様子と繋がっていていることを感じ、嬉しかった。相互理解をして、子どもたちのために動い

- ていきたい。(保育園)。
- 18 座長の先生がすごく良い取りまとめ方をしてくださりました。小学校の良いところ、幼・保の良いところ、今後どのようにして連携していけたら良いか、難しいですが少しずつ意見が交換できたと思います。(保育園)
 - 19 小学校の授業の様子をゆっくり見ることが中々無かったので、大変勉強になりました。(保育園)
 - 20 幼稚園・保育園の先生方から不安な点や、どのように日々の生活を送っていらっしゃるのかを教えていただいたので、非常に参考になった。様々な園から進学している現状はあるが、学区ごとや就学の多い園の先生と、より密に話ができるの良いと思った。引継ぎについて、年度末に必要なのは確かだが、忙しい時期ではあるけれど、年度初めに必要な児童だけでも担任同士が直接引き継ぐ必要があるのではないかとも思った。(小学校)
 - 21 普段知ることのできない幼稚園・保育園の様子を聞くことができたのは良かった。また、幼稚園・保育園の先生方の小学校へ就学させる際の悩みを知ることができたのも良かった。より具体的に幼稚園・保育園の様子を知ることができれば、もっと連携をとることができると思った。(小学校)
 - 22 幼稚園・保育園での過ごし方、遊びの中から学ぶということ、それを活かして1年生の生活にスムーズに入っていけるのかなと思うところがたくさんありました。幼稚園・保育園で学んだこと・できることを自信を持って、小学校でもそれを活かしていくことが大切だと思いました。学校に戻って早速取り入れられるところは取り入れていきます。ありがとうございました。(小学校)
 - 23 他の学校の取組みが見られて良かったです。子どもたちが進んで話している姿が印象的でした。協議ではもっと幼稚園・保育園の先生方と意見共有ができると良かったです。(せっかくの機会ですので…) (小学校)

5. 今後の三者連絡会の実施方法等についてご意見、ご要望がありましたらご記入ください。

- 1 この時間帯で良いと思います。(幼稚園)
- 2 せっかくの機会ですので、就学先の先生や、同じ学区の園でグループ編成して協議してみたいと感じました。(幼稚園)
- 3 もう少し多くの小学校の先生方に出席していただきたいです。小学校の先生のリアルな思いを聞けたら、もっと理解が深まると思います。(保育園)
- 4 貴重な話を聞いて良かったです。ありがとうございました。(保育園)
- 5 小学校の先生の出席がもっと増えると良いと思った。(保育園)
- 6 話し合いの中でも出たが、保護者の協力が不可欠であることを実感したので、保護者が参加するのも必要だと思った。(小学校)
- 7 小学校教員は小学校の授業を見なくても良いのではないかと感じたが、協議にはより多くの小学校教員が参加することで、より有意義なものになるのではないと思う。(小学校)
- 8 話し合いの時間を多く設けていただきたいです。カリキュラムについての必要性も大変よく分かりました。しかし、学校全体のカリキュラム(特に1年生)を変えていくのは、学級担

(唐子小学校)

任だけでは力不足です。低学年担当教員だけでなく、管理職や教務主任がこのような連絡会へ参加できると、カリキュラムの編成に一步近づけるのでは、と思いました。三者連絡会はあくまでも、お互い（幼・保・小）の歩み寄り（情報交換）が良いのでは、と思います。

(小学校)

- 9 三者連絡会の明確なねらいを参加者の皆さんで共有できると良いと思う。(その他)

幼保小三者連絡会 アンケート結果

開催日 令和7年7月9日(水)

会場校 市の川小学校

参加者 公開授業 37人

研究協議 39人

アンケート回収 29枚

1. 所属

	幼稚園	保育園	小学校	その他	計
人	9	14	5	1	29
%	31.0	48.3	17.2	3.5	100.0

2. 参加回数

	初めて	2回目	3回目	4回目以上	計
人	10	11	4	4	29
%	34.5	37.9	13.8	13.8	100.0

3. 参加してみたの感想

	大変良かった	まあまあ良かった	ふつう	やや物足りない	物足りない	未記入	計
人	21	8	0	0	0	0	29
%	72.4	27.6	0	0	0	0	100.0

4. 良かった点、物足りない点

- 卒園した子どもたちの成長した姿を見られて良かった。小学校教育も幼児教育・保育も根本的に大切にしている部分は同じだと思うが、どちらも少しずつお互いの環境に合わせた関わりや環境設定を工夫していく必要があると思った。(幼稚園)
- 小学校の先生方がどのように授業を進めているのか、様子が見られて良かったです。その中で幼稚園と同じ点、異なる点が見られてとても良い機会となりました。あたたかく自分の気持ちを伝え合えるような授業が見られ、子どもたちも楽しそうで安心しました。昨年、卒園した子も頑張っていて良かったです。(幼稚園)
- 初めて小学校の授業を見せていただいたのですが、勝手に小学校の授業がきちんとしているイメージがありましたが、先生方が楽しい授業を展開していることで、子どもたちも楽しみながら参加していて良かったです。(幼稚園)

- 4 小学校の様子を知ることができたこと、卒園児の様子を見られたことが良かった。小学校の先生の意見も聞けて良かった。(幼稚園)
- 5 就学前にどんな所に力を入れたら良いかを、具体的に小学校の先生にお伺いできて良かったです(失敗しても大丈夫と考えられる気持ち、思ったことを伝えられるように、昔話や歌、伝承あそびなどを経験する)。マット運動は、靴下を脱いだ方が安全かつ上手になる子が増えると思いました。(ビニールシートで滑って力が入っていない様子がありました)(幼稚園)
- 6 1年生のこの時期の授業の様子が見られてとても良かったです。また、協議では小学校と幼稚園・保育園の違いや、小学校の4月の様子から年長児にこのようなことを身に着けてほしいなどの話し合いができ、とても有意義な時間になりました。物足りない点は特にありません。(幼稚園)
- 7 小学校の先生のお話や困りごとをお聞きできたことで、園の生活でどのように子どもたちの成長のために関わっていこうか考えるきっかけとなりました。(幼稚園)
- 8 昨年度担任をしていた子どもたちの姿を見ることができ、成長している姿が見られたので安心しました。話し合いの中で、幼稚園でやっておいてほしいことを教えてもらい、今後の歩育の参考になりました。(幼稚園)
- 9 昨年まで幼稚園・保育園で過ごしていた子どもたちの、学校での様子を見られて良かったです。小学校の先生から就学前の今からできること、気をつけていけること、学んでおくことを聞くこともできました。保育に活かしたり、子どもたちにも伝えていきたいです。(幼稚園)
- 10 他の園での保育の仕方や、小学校就学までに子どもに育ってほしい姿を小学校の先生から具体的に聞くことができてとても良かった。園での生活の仕方や保護者との連携が、小学校における子どもたちの姿に大きく影響したり、発達面で心配なケースの早期発見にも繋がるということが分かった。(保育園)
- 11 こういった連携はとても大切なので、今後も続けていただけたらと思います。(保育園)
- 12 他の園や小学校の方と実際に話ができて、とても学びになりました。もっと自由に話す時間があれば嬉しかった。またぜひ参加したいです。(保育園)
- 13 帰りの会や体育の授業を、三者連絡会で見せていただいたのは初めてだったので良かったです。小学校の先生から、就学までに身に着けておいてほしいことを聞くことができて良かったです。(保育園)
- 14 なかなか普段見られない、小学校の授業の様子が見られて良かったです。協議会では、今の幼児教育と小学校教育の現状を知ることができて、今後の課題も見つかりました。明日からの保育に繋げていきたいと思います。(保育園)
- 15 子どもたちが自分で学ぼうとしている姿がよく分かりました。授業も楽しく工夫されていて指示ではなく言葉を聞いて考える授業ができていました。(保育園)
- 16 小学校の授業の様子が見られて良かったです。楽しく見ることができました。ありがとうございました。色々な経験をして、小学校でも学んでほしいと思います。(保育園)
- 17 一学期がもうすぐ終わるタイミングで一年生の様子が拝見でき、数か月で幼児がどう成長していったかを見られました。各クラスの授業内容がそれぞれだったので、興味深かった半面、全て見られなかったのが残念でした。小学校の「今」を知る貴重な連絡会でした。(保育園)
- 18 小学校の先生から、課題や困っていることを聞くことができ、今後の保育に活かせると思っ

- た。研究協議の際、自由に意見をと言われても、なかなか発言しにくく、同じ人ばかり意見を言うようになってしまっていた。(保育園)
- 19 他の園の取り組みを聞いて、自園との比較や取り入れができたこと、小学校1年生の現状を知ることができたことが良かった。(保育園)
- 20 小学校の先生がいらっしゃったので、子どもたちの様子、どんなことに取り組んだら良いのか等、詳しく知ることができ、とても良かったです。これからの保育に取り入れてとともに、保育園全体で共有して育てていけるようにしていきたいと思います。また、1年生の授業を見ることができ、様子を知ることができて良かったです。(保育園)
- 21 体育・音楽・国語と様子の違う授業が見られて良かった。小学校の先生の話が聞けて良かったです。(保育園)
- 22 子どもたちの主体的な授業が印象に残りました。子どもの人数が少なかったことが残念です。(保育園)
- 23 多様性と自由は違うということを改めて考える機会になりました。自分で考えて行動できるように、と保育を行っていますが、自分の主張ばかりで相手を受け入れられないような姿も見られるので、在園中に色々な経験をしながら、今は何をすべきかなどを考えられるような保育をしていこうと思います。(保育園)
- 24 様々な立場でのお話を伺えて、大変勉強になりました。ありがとうございました。(小学校)
- 25 “小一プロブレム”と言われている部分はどんなところなのか、幼・保・小でどう対応し合っていけば良いのか、せっかくのチャンスだったので、多くの先生方との会話を通してもっと話し合いたかったです。(小学校)
- 26 幼・保の先生方のお話を聞いて、今後の学校生活に活かしていけると思った。連携が取れることで、子どもたちがスムーズに学校生活に慣れていけると良いと思った。困っていることや問題点について、もっと掘り下げて考えてみても良いかと思う。(小学校)
- 27 幼・保・小の情報交換ができて良かったです。他校の情報が分かり参考になりました。(小学校)
- 28 幼・保・小が歩み寄る話し合いができたことが良かった。資質・能力をベースとした東松山市の視点を作成した方が良いだろうか。(その他)

5. 今後の三者連絡会の実施方法等についてご意見、ご要望がありましたらご記入ください。

- 1 小学校の先生が幼稚園の生活の様子や就学に向けての工夫など、知らない点が多くある気がした。より知ってもらえるような機会を設ける必要があるのではないかと思った。そうすれば、小学校と幼・保でより良い連携ができると思う。(幼稚園)
- 2 今後もこのような連絡会を開いていただくと、様々な学びがあり、とても良いと思いました。(幼稚園)
- 3 接続については、まだ課題・壁があるなと感じた。(幼稚園)
- 4 「10の姿」が目標ではありますが、具体的なことが分からない所もあるので、小学校の先生の意見や、他の園の先生方の意見交換ができる場は良いと思います。(幼稚園)
- 5 今回のように、小学校側からの要望を伺えると、子どもたちの就学に向けて対応しいけるので良いと思います。(幼稚園)

- 6 毎回とても勉強になります。今後も継続して実施していただきたいです。(保育園)
- 7 小学校の先生の話しが聞けて良かった。先生の意見を聞ける場をもっと設けてほしい。
(保育園)
- 8 もう少し話し合いの時間が長くても良かったと思います。(保育園)
- 9 授業公開を幼・保・小の三つの立場が、それぞれ持ち回りでやっていく形式でできると良いと思いました(初参加でやり方を良く理解はしていませんが)。ありがとうございました。
(小学校)
- 10 教室、教室以外で授業が見られて良かったです。教科もそれぞれで良かったです。子どもたちの様子が授業を見たことでとても良く分かりました。(小学校)